

# 生活科・総合的学習の時間研究委員会

## 1 研究テーマ

生活科・総合的な学習の時間において、  
学ぶ喜びを味わえる授業づくりはどうあったらよいか。

## 2 研究課題

- (1) 子どもが自ら関わりたくなるための素材，題材について考えた。
- (2) 「もの，こと，人」と関わる子どもの姿から，生活科における学ぶ喜びについて考えた。
- (3) 子どもが学ぶ喜びを味わうための支援，評価について考えた。

上記の3つを研究課題の柱として進めてきた。

## 3 指導の実際

期日...平成19年11月7日

会場校...日野小学校

教科及び単元名...生活科 「牛にゆうパックの大へんしん」

授業学年...2学年

この単元は，7月，自分たちの夢を実現した「ぼくらのふね」の学習が土台となり，より一層，子どもたちの夢を高めていきたいと考え，設定した。

本時は，7月の「ぼくらのふね」で使った牛乳パックを使って，自分が思いをはせる相手の事を考えながら，はがき作りをした。本時では，2枚のはがきを作った。色，形，厚さ，大きさ等，一人一人が，願い達成に向かって様々な工夫をして活動に没頭していた。子どもたちは，1枚目のはがきのできばえを自分で確認したり，グループの友達に助言をもらったりしながら，2枚目は，より一層思いのこもったはがき作りをする事ができた。

## 4 この事例から明らかになったこと

<素材，題材について>

子どもたちは，今回，牛乳パックを使って学習した。牛乳パックは子どもたちにとって身近にある物である。また，今回使った牛乳パックは，7月に自分たちの夢の実現のためにおこなった船造りで使った牛乳パックである。だから，この牛乳パックには，子どもたちの様々な思いや願いがつまっていた。そのため今回は，自分のかけがえのない物を変身させ，かけがえのない人へ送るはがき作りへ広がっていった。子どもたちの姿から，身近にある物に子どもたち自身が思いをかけ，実際に関わり，学習していくことで，子どもたちは，どんどん学びを深めていくことがわかった。

<生活科における学ぶ喜びについて>

自分なりの思いや願いをもち、心や体をほぐして対象に自らかかわることができる。

(生活への関心・意欲・態度)

自分なりの考えで関わったり、工夫したりして、表現することができる。

(活動や体験についての思考・表現)

活動を通して、知的な気付きがある。

必然的に生まれる身近な人や社会、自然とのかかわりを通して、自他のよさに気付くことができる。

(身近な環境や自分についての気付き)

生活科における学ぶ喜びとは、上記の ~ のことをいうのではないかと、子どもの姿から、指導者の先生からご指導をいただいた。

<支援，評価について>

特に評価の視点について、指導をしていただいた。

評価の視点は、子どもの学習状況から見取る際の「着眼点」や「よりどころ」といえるので、評価規準に即して、子どもの具体的な活動の姿が分かるようにしたものである。すなわち、「このような姿が現れれば評価規準を満たしていると判断してよいのではないか」という望ましい姿の例である。それは、評価規準と具体的な子どもの姿との間の距離を補完する役割をもつ。

まず、これに当たる子どもの姿を見取っていくのが自然である。それにとどまらず、評価の視点の範疇にあることはもちろん、範疇にないが共有化したい望ましい子どもの姿を新たに評価の視点に加えていく。こうして評価の視点を一層妥当性のあるものにしていくことが重要である。

## 5 来年度への課題

- (1) 子どもたちが地域のよさを感じながらかかわりを深めていくことができる地域素材の開発。
- (2) 子どもたちの学ぶ喜びをより高めていくことができる支援のあり方。
- (3) 子どもたちの具体的な姿から、評価の視点を一層妥当性のあるものにしていくこと。

## 6 その他

生活科や総合的な学習の時間は、平成19年11月7日付けの中教審から出された審議のまとめでも示されているが、生きる力を育てる教科、学習として重要である。上高井郡全体としても、より一層の推進を要望したい。